



## 年間第 19 主日 (マタイ 14:22-33)

イエスから「数段難しい課題」を与えられたら

井持浦教会から福江に帰るとき、大宝地区で三叉路になりますね。井持浦からですとこの三叉路を左に曲がって福江に帰ります。これまで三叉路から右の道を使ったことはなかったのですが、好奇心にかられて、主任司祭が休暇を入れている水曜日にバイクで三叉路までやって来て、その先をまっすぐ走ってみました。

なんとか福江には帰り着きました。帰り着きましたが、まあ遠いこと。自動車学校のそばを通ったことだけは覚えています、あとはどこをどうやって帰り着いたのか、まったく覚えていません。もう二度と、あの道は通らないでしょうね。

ミサ中の福音朗読は、説教するのが難しいときがあります。今週の「湖の上を歩く」という物語がまさにそうです。私たちに当てはめやすい物語はよいのですが、水の上を歩くイエスと、「水の上を歩いてそちらに行かせてください」(14・28)と願うペトロを、どのように当てはめたら良いのか。ずいぶん苦労しました。

こう考えてみました。私たちが「数段難しい課題を与えられた時」どのように向き合えば良いのかをイエスは問うている。今週の朗読をこのように考えてみました。それが「もう一段難しい課題」でしたら、努力を重ねれば、また長い年月をかければ、できるようになるかも知れません。しかし「数段難しい課題」は、どれだけ努力しようと、年月を重ねようと、たどり着けないと感じるのではないのでしょうか。

ペトロは、「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください」と願いました。これは「もう一段難しい課題」だったのでしょうか。ペトロの願いは「数段難しい課題」であり、努力などではとてもたどり着けない願いだったのです。

イエスは、「無茶言うなよ」と言いましたか? 「来なさい」(14・29)と言ったのです。常識的に考えれば、「来なさい」とは言いませんよね。ここに、「数段難しい課題を与えられた時」の振る舞いかたが示されているのです。それは、「安心しなさい。わたした。恐れることはない。」(14・27)この言葉を全面的に信頼するということです。

中田神父はこの30年で、「もう一段難しい課題」をイエスから次々と与えられてきました。それが今回は「三つの小教区の主任司祭と、初めての地区長」でした。私にとっては「数段難しい課題」でした。今回示されたイエスの「来なさい」に、私は応えることができるだろうか。気分は沈みそうでした。

ペトロが強い風に気がついて怖くなり、沈みかけ、「主よ、助けてください」と叫んだとき、イエスはどうなさったのでしょうか。「すぐに手を伸ばして捕まえ」(14・31) たのです。イエスはペトロのすぐそばで、見守ってくださっていたのです。

中田神父に今回与えられた任務が「これまでより数段難しい課題」であるなら、イエスはすぐに手を伸ばして捕まえることのできる場所で見守ってくださっているはず。疑わず、深い信頼を寄せること。必要なのはこれだけだと思います。

皆さんにも、イエスが「数段難しいこと」をお願いする時があるでしょう。その時イエスは必ず、手を伸ばして捕まえることのできるすぐそばで、見守ってくださっている。そのことを信じましょう。

いちばん大切な人を失ってしまった時。これまでの生活が一変するような災難に遭った時。沈みそうになるその時、イエスは必ずあなたのすぐそばで見守っておられるのです。イエスの次のことばを、励ましと受け取りましょう。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」(14・31)。

聖母の被昇天(ルカ 1:39-56)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。